



世界経済のトレンド丸解り！今週の注目レポート



このコーナーでは、フィナンシャル・インテリジェンス部に配属された新人のルミが「世界経済の今・そしてこれから」を把握するために是非読んでおきたい、今週の重要レポート・ニュース記事を紹介します。（原則月曜日更新）

「部長、おはようございます・・・」

「今日は元気ないな。どうしたんだ？」

「いえ、別に・・・。」

「『別に』って返事はないだろう。全く、近頃の若い子は・・・。ところで、この掛け合いだが、読者から『冒頭の会話は不要だ』という意見もきているから、今日はすぐに本題に入ろう。いつものは書いてきたかね？」

「もちろんですよ！」



今週の注目レポート・重要ニュース

日本の7-9月期 GDP 速報値下振れで 安倍総理の増税延期判断に注目集まる

■経済指標や重要イベントなど

【1.米国】

先週の米国市場は、主要な経済指標の発表が少ないなど材料不足の中、堅調な米国経済への期待感などから上昇し、NY ダウ平均や S&P500 などは 4 週連続での値上がりとなり、史上最高値を更新しました。ただ、NY ダウ平均は終値が前日比で 3 桁の値動きをする日が週を通して 1 日もないなど、小動きの様相でした。

1-1. 小売売上高

14日に発表された10月の小売売上高は前月比0.3%の増加と市場予想の0.2%増を上回りました。重要視される自動車とガソリンを除く売上高は0.6%増とこちらも市場予想（0.4%増）を上回りました。米国GDPの約7割を占める個人消費に底堅さが見られたことは、好材料と言えます。

1-2. ミシガン大学消費者信頼感指数

14日に発表された11月のミシガン大学消費者信頼感指数（速報値）は89.4と前月から2.5ポイント上昇し、2007年7月以来の高水準となりました。消費者センチメントが上向いていることは



まもなく迎える年末商戦への期待を高める結果となりそうです。

1-3. 住宅関連指標

今週は住宅関連の経済指標が数多く発表されます。18日のNAHB住宅市場指数の発表を皮切りに、19日には住宅着工件数、20日には中古住宅販売件数と続けて発表されます。

詳細は「米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

【2.欧州】

先週の欧州の主要株価指数はドイツのDAX指数が小幅に下落した一方、フランスのCAC40指数は上昇するなどまちまちでした。米国市場同様、経済指標の発表が少なく材料難の様相の中、小幅な値動きが目立ちました。

2-1. ユーロ圏 GDP

14日に発表された7-9月期のユーロ圏GDP速報値は前期比0.2%増と市場予想の0.1%増を上回りました。

2-2. ユーロ圏製造業購買担当者景気指数 (PMI)

20日にユーロ圏の製造業購買担当者景気指数 (PMI) が発表されます。50を上回る堅調な内容となるかどうか注目されます。

【3.日本】

先週の日本市場は上昇しました。10月末に発表された日銀の追加金融緩和に続いて、安倍総理が消費税増税の延期を決定し、国民に信を問うため衆議院の解散総選挙を実施する意向であると報じられたことが買い材料となりました。増税延期による景気へのプラス効果とともに、選挙で勝利すれば安倍総理が改革を実行するための地盤が強化されるとの期待が高まりました。

3-1. 景気ウォッチャー調査

11日に発表された10月の景気ウォッチャー調査では、現状判断DIが44と前月から3.4ポイント低下し、消費税増税が実施された4月以来の低水準となりました。先行き判断DIも46.6と前月から2.1ポイントの低下となり、改めて街角景気の厳しい現状が浮き彫りとなりました。



3-2. 7-9月期 GDP 速報値

17日に発表された7-9月期のGDP速報値は前期比年率換算-1.6%と、市場予想を大幅に下回る結果となりました。安倍総理は消費増税の実施についてGDP速報値を見て判断すると再三強調していることから、思わぬ弱い数値の発表を受け増税延期の判断をする可能性が高まったと言えます。

3-3. 金融政策決定会合

18日から19日にかけて日銀の金融政策決定会合が行われます。10月31日に追加金融緩和が発表されたばかりのため、金融政策の現状維持が決定される可能性が高いと思われませんが、結果発表後の黒田総裁の会見で消費増税についての発言があるかなどが注目されます。

【4.中国】

先週の上海市場は上昇しました。上海市場と香港市場の相互取引の実現期待が高まったことなどが上昇要因となりました。

4-1. 消費者物価指数・小売売上高・鉱工業生産

10日に発表された消費者物価指数は前年同月比1.6%高と市場予想と一致しました。13日に発表された小売売上高は前年同月比11.5%増と市場予想をわずかに下回りました。鉱工業生産も前年同月比7.7%増と8.0%増の市場予想を下回りました。

4-2. HSBC 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値

20日に11月のHSBC製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値が発表されます。市場予想では50.2と前月の50.4から悪化すると予想されています。

詳細は「中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

詳細レポートは以下をご参照ください。

- [日本][チーフ・ストラテジスト広木隆の「ストラテジーレポート」](#)
- [日本][シニア・マーケットアナリスト金山敏之の「投資のヒント」](#)
- [日本][フィスコの「週刊マーケット展望」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社や TIW 社の「アナリストレポート」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][主要日本企業決算カレンダー](#)
- [米国][主要米国企業決算カレンダー](#)



- [\[米国\] 米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [\[中国\] 中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [\[その他\] J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社の、「マクロ経済レポート ウィクリー・データ・ウォッチ」「グローバル・データ・ウォッチ」\(ログイン後限定レポート\)](#)

グローバル・マクロ・ビュー（世界経済の基本観）

1.日本（赤字が前回からの変更点）

7-9月期のGDP速報値は市場予想を下回りマイナス成長に。安倍総理は増税延期を決断か。

2.米国（前回からの変更なし）

景気回復鮮明に。FRBによる資産購入は終了。今後は利上げ時期が焦点に。

3.欧州（前回からの変更なし）

ECBが量的緩和に踏み出すかが焦点に。

4.新興国（前回からの変更なし）

中国のGDPが5年ぶり低水準で景気後退懸念は継続。今後の動向に要注目。

「部長、お先に失礼します！」

「お疲れ様。」

「今日は、読者の方からの意見云々というよりはネタがなかったんじゃないですか？」

「……。榎原君、鋭いね。その鋭さを仕事にもっと生かしたほうがいいんじゃないか。」

「女の勘ですよ～、部長！」

「来週も本題をしっかりと書いてきてね。」

「分かってますってば！」



利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
一般社団法人 日本投資顧問業協会